

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
現代の国語	総合ビジネス科・2年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 現代の国語（東京書籍） <input type="checkbox"/> 傍用参考書 教科書準拠学習ノート（東京書籍） <input type="checkbox"/> 傍用参考書 五訂版常用漢字オールクリア（尚文出版）
-------------	---

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能をICTや辞書、補助教材を用いて身に付けるようにする。	協働的かつ対話的な活動をとおして論理的に考える力や、深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	各種検定試験の受験や作文コンクールへの主体的な参加を促しながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	40%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準 [知識・技能] ・社会生活上、必要な国語の知識や技能について理解し、活用することができる。 ア言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。 イ常用漢字の読み書きに慣れ、文章の中で使うことができる。 ウ実社会で必要な語句の量を増やし、その構造や用法等について理解し、実際に活用することで、語感を磨き語彙を豊かにする態度を育むことができた。</p>	<p>B 評価の規準 [思考・判断・表現] ・自分を取り巻く環境や状況について客観的かつ論理的に思考を重ね、他者と伝え合うことで更に思考を深め、周囲への共感的態度を涵養する。 ア主張と論拠など情報と情報との関係について理解していること。 イ個別の情報と一般化された情報との関係について理解していること。 ウ推論の仕方を理解し使うことができるようになること。 エ情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。 オ引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。</p>	<p>B 評価の規準 [主体的に学習に取り組む態度] ・社会のさまざまな話題や課題に幅広く関心を持ち、言葉をとおして自他の存在について理解を深めようとしている。 ・粘り強く本文の要点を把握し、学習課題に沿って視点を変えてみることを理解し、自ら論点における課題を調べようとしている。 以下の事柄を評価対象とする。 ・言語活動 ・提出物(提出状況及び取組内容) ・各種検定試験への取組について、その成果が顕著であった場合も評価の対象とする。</p>
<p>※定期考査および単元小テスト、 「思考・判断・表現」分野は言語活動も評価対象とする</p>		
<p>上記の内容について、取組や成果が特に顕著であった場合、A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	「身銭」を切るコミュニケーション(内田樹)	4	語彙力向上, 修辞(比喻, 例示等) 読解の基礎(例示から作者の意図を把握)
5	水の東西(山崎正和)	6	語彙力向上, 修辞(比喻, 例示等) 論の展開(対比, 言い換え等) 文化論について
6			
7	実用の文章 (資料読解編) (実践編(小論文に向けて))	5	様々な資料の読解の基本について。 効果的に他者に伝えるためには。 表現の実践①(意見文)
8	共鳴し引き出される力(伊藤亜紗)	7	語彙力向上, 修辞(比喻, 例示等) 語句の本文中での定義を確認し, 主旨を把握する(「能力」「予防」「予備」等)。 言語活動(ジグソー活動)
9			
10	生物の多様性とは何か(福岡伸一)	6	語彙力向上, 修辞(比喻, 例示等) 本文中で指摘されている事象について, 自身の 周辺環境と比較しながら考察を深める。 言語活動(調べ学習)
11	暇と退屈の倫理学(國分功一郎)	6	語彙力向上, 修辞(比喻, 例示等) 筆者が引用した箇所の読解から筆者の意図を 理解する(『豊かな社会』)。
12			
	小論文の書き方について	2	表現の実践②(引用と主張の関係性)
1	学ぶことと人間の知恵(広中平祐) 人工知能の現在と未来 (羽生善治・篠原弘道)	5	語彙力向上, 修辞(比喻, 例示等) 二つの文章を読み比べながら共通点や相違点を みつけ, 論理的に説明する。
2	小論文の書き方について	4	表現の実践③(検証し比較する)
3			
	広告の形而上学(岩井克人)	2	語彙力向上, 修辞(比喻, 例示等) 資本主義における広告の意義について, 例示されている事柄を参考にして理解する。

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
地理総合	普通科2年 総合ビジネス科2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 地理総合（東京書籍） <input type="checkbox"/> 地図帳 基本地図帳（二宮書店） <input type="checkbox"/> 資料集 最新地理図表 GEO（第一学習社）
-------------	---

科目の目標		
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを系統的に理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用い、ICT も活用しながら調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、協働的な学習をとおして地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事情について、地域に関する学びや体験等を踏まえてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [わかった・できた] ・各時間の「問い」や「課題」に対して、ポイントとなる語句を理解し、キーワードとして挙げるができる。 ・各時間の「問い」や「課題」に対する答えを導くために、資料から必要な情報や見方・考え方を読み取ることができる。	B評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・各時間の「問い」や「課題」に対して、 ①どんな概念や資料を用いれば良いか、見出すことができる。 ②テーマを把握し、社会の状況や実体験と考え合わせて、課題の本質や解決策について多面的・多角的に考察している。 ③他者の意見との違いを整理しながら、自己の考えをまとめ、表現している。	B評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、各時間の「問い」や「課題」に対して答えや解決策を導こうとしている。 [自分なりの工夫] ・これまでの学びの振り返りを生かして、ノートを取り方などを工夫している。また、仲間と協働して学び合うことで自己の考えを深めようとしている。さらに、各時間の「問い」や「課題」を自らの問題として捉え、主体的な答えや解決策を導こうとしている。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価は、単元テスト及び定期考査でも行います。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	1-1 私たちが暮らす世界	3	・24時間、地球は眠らない。 ・丸い地球を、平らな紙に正しく描けるだろうか。 ・小さな島が、大きな意味を持つのはなぜ？
5	1-2 地図や地理情報システムの役割	4	・地図を使わない人は、ほとんどいない。 ・地形や土地利用の歴史がひと目でわかる。 ・このテーマ、どんな地図で表すべきか。 ・地図の可能性は、まだまだ広がる。
6	1-3 資料から読み取る現代世界	5	・地球は、どんどん小さくなっている？ ・世界中が、ネットでつながりはしたけれど。 ・仕事に、旅行に。人々は外国をめざす。

			<ul style="list-style-type: none"> ・国どうしの貿易は、どう変化しているのか。 ・国どうしの結び付きで、世界はどこに向かう？
7	2-1-1 生活文化の多様性と国際理解	2	<ul style="list-style-type: none"> ・肉じゃがと言えば？「牛肉だ！」「豚肉だ！」 ・宗教に根ざした、習慣や文化がある。
	2-1-2 生活文化と自然環境①地形	3	<ul style="list-style-type: none"> ・山に住むには、どんな工夫が必要なのか。 ・流れる川が、地形を変えていく。 ・さまざまな海岸と、そこでの暮らしとは。
8 9	2-1-3 生活文化と自然環境②気候	5	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜこれほど違う？暑さ、寒さ、雨の量。 ・強い日差しと激しい雨。人々の暮らしと農業は？ ・雨が少ない！どうやって水を得る？ ・クーラー不要の地域からストーブ不要の地域まで。 ・長い冬を過ごすための食料や、町の工夫とは？
10	2-1-4 生活文化と産業	4	<ul style="list-style-type: none"> ・人の食生活は、気候だけで決まるのだろうか？ ・工場は、どんな理由でどんな場所に建つのか。 ・売り方も、買い方も、社会とともに変化する。 ・ものづくりも働き方もICTが変えていく。
11	2-2-1 地球環境問題	2	<ul style="list-style-type: none"> ・大気と海に、何が起きているのだろうか。 ・森林減少と砂漠化、その原因を探る。
	2-2-2 資源・エネルギー問題	2	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが、欲しがらる。だから、取り合いに。 ・地球を、「電池切れ」にさせないために。
	2-2-3 人口問題	2	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が増えたのはなぜ？何が問題なのだろうか。 ・若者が減り、高齢者が増えるとどうなる？
12	2-2-4 食糧問題	1	<ul style="list-style-type: none"> ・増産しても、まだ足りない。なぜだろう。
	2-2-5 居住・都市問題	2	<ul style="list-style-type: none"> ・人は、何を求めて都市に向かうのか。 ・なぜ、再開発が必要なのか。
	2-2-6 民族問題	1	<ul style="list-style-type: none"> ・くり返す対立で、国を追われる人々がいる。
1 2	2-2-7 持続可能な社会の実現をめざして	1	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな課題を、解きほぐす糸口とは。
	3-1-1 日本の自然環境の特色	2	<ul style="list-style-type: none"> ・火山や、流れの速い川。日本は動き続けている。 ・四季ある国の、季節ごとの天候は？
	3-1-2 さまざまな自然災害と防災	7	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が発生するメカニズムとは。 ・くり返す地震を、災害史から学ぶ。 ・火山をよく知り、共存していくために。 ・雪、猛暑、水不足、台風。どんな被害をもたらす？ ・大雨で、あふれる水。何が起こるのだろうか。 ・都市を襲う災害、危険はどこにある？ ・地域を災害から守るため、いま、できることは？

3	3-2 生活圏の調査と地域の展望	4	<ul style="list-style-type: none">・学校のまわりの、地理的テーマを探せ！・「〇〇かな？」まずは仮説を立ててスタート。・どこを歩いて誰に聞くか。計画が大切だ。・地域のこれからを、皆で考えていくために。
---	------------------	---	---

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
数学A	総合ビジネス科2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新 高校の数学A (数研出版) <input type="checkbox"/> 問題集 ポイントノート数学A
------	---

科目の目標		
図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○観点別目標の達成や取組の状況において 「十分満足できる」状況と判断される場合「A」（点数での目安：7割以上） 「おおむね満足できる」状況と判断される場合「B」（点数での目安：3割以上7割未満） 「努力を要する」状況と判断される場合「C」（点数での目安：3割未満） と評価する。		

<p>○知識・技能の評価問題（主に計算問題）を理解している。 [到達度チェックテスト] [授業時の解答状況等]</p>	<p>○思考力・判断力・表現力の評価問題（主に応用記述問題）を理解している。 [到達度チェックテスト] [授業時の解答状況等]</p>	<p>○授業に臨む態度等 （日々の授業時） ○課題（宿題）等の取組・提出状況 （プリント・ノート等） ○努力度・理解度の自己評価 （到達度チェックテスト）</p> <p>※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえたうえで評価する。（例：CCA という評価はほぼありえない。）</p>
<p>○定期考査の点数だけでなく、日々の授業の取り組みも評価します。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	【数学Ⅰ】 第5章 データの分析	4	1. データの整理 2. データの代表値
5		8	3. データの散らばり 4. データの相関
6	【数学A】 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	7	5. 仮説検定の考え方 1. 集合 2. 集合の要素の個数
1 学期期末考査			
7		6	3. 和の法則と積の法則
8		2	4. 順列
9		7	4. 順列
1 0	2 学期中間考査		
		8	5. 組合せ
1 1	第2節 確率	8	1. 事象と確率 2. 確率の計算 3. 独立な試行と確率
2 学期期末考査			
1 2		6	4. 条件つき確率 5. 期待値

1	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	6	1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心, 内心, 重心
2	3学期学年末考査		
		6	4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円の接線
3		4	7. 方べきの定理 8. 2つの円 9. 作図

令和6年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
科学と人間生活	農業食品科・ グリーン環境科・ 社会福祉科1年、 総合ビジネス科2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 科学と人間生活（数研出版）
------	--

科目の目標		
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けるようにする。</p>	<p>観察、実験等を行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p>	<p>自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・ワークシートや課題に対して自ら取り組み、内容を理解したうえで適切な答えを記入することができる。 ・実験において、仮説を立証するために必要な操作を適切に行うことができる。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・授業の導入時や各種問いについて、 <u>専門用語を用いて説明することができる。</u> ・実験において、知識や条件をもとに <u>仮説を立て、実験後に考察して結論を出すことができる。</u>	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動や実験に真剣に取り組み、安全・スムーズに進むようにするために、仲間と協力し考えながら、仮説を立てたり考察したりすることができる。 [課題に対する調整力] ・仲間の意見や考えを聞いたうえで、自分の意見や考えに反映させることができる。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
主な評価場面 ※座学・実験：「知識・技能」「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」 ※定期考査：「知識・技能」「思考・判断・表現」。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	序編 科学技術の発展	1	人間生活の歴史
		2	
		3	
	第2編 生命の科学 第2章 微生物とその利用	1	身まわりの微生物
5		2	微生物とその発見の歴史
		3	
		4	発酵食品への微生物の利用
		5	
6	乳酸発酵とアルコール発酵		
7			
8			

6		9	医薬品への微生物の利用
		10	
		11	生態系における微生物
		12	
		13	
		14	環境の浄化と微生物
		15	
7	第3編 光や熱の科学	1	光の色
	第1章 光の性質とその利用	2	
		3	光の直進と反射
		4	
		5	
8		6	光の屈折と全反射
		7	
9		8	光の分散と散乱
		9	
		10	
		11	光の回折と干渉
		12	
		13	電磁波
		14	
10		15	電磁波の利用
	第1編 物質の科学	1	金属と人間生活
	第1章 材料とその利用	2	
		3	身のまわりの金属と製錬
		4	
		5	
11		6	金属のさびとその防止
		7	
		8	プラスチックとその性質
		9	
12		10	プラスチックの成り立ち
		11	
		12	さまざまなプラスチック
		13	
		14	資源の再利用
		15	
1	第4編 宇宙や地球の科学	1	日本列島とプレート

	第1章 太陽と地球	2	
		3	地震のしくみと地震活動
		4	
		5	地震による災害
		6	
2		7	マグマがつくる火山と景観
		8	
		9	
		10	火山がもたらす恵みと災害
		11	
		12	水のはたらきと自然景観
		13	
		14	土砂災害と洪水
		15	
3	終編 これからの科学と人間生活	1	課題研究の進め方
		2	

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
体育	2年普通科・総合ビ ジネス科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p>	<p>運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p>	<p>生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。 ・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。 	<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに毎時の反省を記入し、自己評価をしようとしている。 ・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしている。 	<p>B 評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。 ・活動の目的を理解し、実践しようとしている。 ・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 ・授業に積極的に参加しようとしている。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	10	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6 7	球技（選択①）	12	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境

8	球技（選択②）	2	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
9	球技（選択2）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
10	球技（選択③）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
11	陸上競技（長距離走）	8	20分間走・ロード走
12	陸上競技		20分間走・ロード走
1	ダンス 球技	6	現代的なリズムのダンス <input type="radio"/> ゴール型 <input type="radio"/> ネット型 <input type="radio"/> ベースボール型
2	ダンス 球技	6	現代的なリズムのダンス <input type="radio"/> ゴール型 <input type="radio"/> ネット型 <input type="radio"/> ベースボール型
3	ダンス 球技	4	現代的なリズムのダンス <input type="radio"/> ゴール型 <input type="radio"/> ネット型 <input type="radio"/> ベースボール型

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
保健	2年普通科・総合ビ ジネス科	1	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p>	<p>健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p>	<p>生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・ 単元テストの内容を理解しようとしている。	B 評価の規準 ・ 単元の内容を理解し、文章表現しようとしている。 ・ グループワークでの話し合いにより、単元の学びを深めようとしている。 ・ 発表の内容を分かりやすく説明したりスライドにまとめたりしようとしている。	B 評価の規準 ・ 互いに協力して教え合おうとしている。 ・ 役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとしている。 ・ 授業に積極的に参加しようとしている。 ・ 発表後に質問をおこない、興味関心を持つようにしている。
※単元テスト、グループ発表の内容、スライドの作成		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ライフステージと健康	1	座学、単元テスト
5	思春期と健康	1	座学、単元テスト
6	性意識と性行動の選択	6	調べ学習（グループワーク）
7	妊娠・出産と健康		
	避妊法と人工妊娠中絶		
	結婚生活と健康 中高年期と健康		
		1	クラス別発表（グループ）
8	働くことと健康	2	座学、単元テスト
9	労働災害と健康		
10	健康的な職業生活		
11	大気汚染と健康	3	調べ学習（グループワーク）
12	水質汚濁、土壌汚染と健康		
	環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備		
		1	クラス別発表（グループ）

1	さまざまな保健活動や社会的対策	1	座学、単元テスト
2	健康に関する環境づくりと社会参加	1	座学、単元テスト
3	<ul style="list-style-type: none"> 【 食品の安全性 【 食品衛生にかかわる活動 【 保健サービスとその活用 【 医療サービスとその活用 【 医薬品の制度とその活用 	5	調べ学習（グループワーク）
		1	クラス別発表・学年発表（グループ）

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
英語 コミュニケーションⅡ	総合ビジネス科・2年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> Power On English Communication Ⅱ <input type="checkbox"/> Power On English Communication Ⅱ スタディノート 単語・熟語 Brick Ⅰ (いわずな書店)
------	--

科目の目標		
英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域(聞くこと・読むこと・話すこと【やりとり】【発表】・書くこと)において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各レッスンにおける文法事項、文の形・意味・用法を理解できるようになる。基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝える技能を身につける。学習した用法を話し言葉において、適切な場面・状況で使う技能を身につける。	各レッスンの内容について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、学習内容について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることができる。	各レッスンの内容について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、学習内容について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりしようとする。 各課題について、自分のためになるように効果的に取り組む。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>[知識]</p> <p>各レッスンにおける文法事項の文の形、意味、用法を理解している。</p> <p>[技能]</p> <p>必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身につけている。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[思考・判断・表現]</p> <p>必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。</p> <p>課題については、自力で取り組み、丸つけややり直しなどを主体的に行う。また、期日を守って提出する。</p>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	Lesson 1	4	助動詞、受け身
5	Lesson 1	6	S+V+C
	Sounds Interesting 1	1	目立たない音節
6	Lesson 2	6	完了形、仮定法過去
7	Lesson 2	4	完了形、仮定法過去
	Zoon in with コーパス 1	1	インターネットはコーパス
9	Lesson 3	6	仮定法過去
10	Lesson 3	5	仮定法過去
11	Sounds Interesting 2	1	目立つ音節
	Lesson 4	6	関係代名詞
12	Lesson 4	5	関係代名詞
1	Lesson 5	5	助動詞+受け身、S+V+C、S+V+O、
2	Lesson 5	6	It seems that ~

3	Essay Writing 1	1	エッセイの構成要素
	Zoom in with コーパス 2	1	副詞

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
理数探究	総合ビジネス科・ 農業食品科・ グリーン環境科・ 2年	2	

使用教材	なし
------	----

科目の目標		
<p>様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>様々な事象についての探究などを行うことを通して、探究の意義、探究の過程、研究倫理などの理解を図るとともに、観察、実験、調査等についての基本的な技能、事象を分析するための基本的な技能、探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能などを身に付けさせる。</p>	<p>多角的、複合的に事象を捉え、課題を設定し、数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行させ、探究した結果などを適切に表現させる。</p>	<p>様々な事象や課題に知的好奇心をもって向き合い、興味・関心に基づいて課題を設定し、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとする態度を身に付けさせる。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
30%	30%	40%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・ワークシートや課題に対して自ら取り組み、内容を理解したうえで適切な答えを記入することができる。 ・実験において、仮説を立証するために必要な操作を適切に行うことができる。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・観察及び実験において、知識や条件をもとに仮説を立て、実験後に考察して結論を出すことができる。 ・観察及び実験において、探究した結果などを適切に表現できる。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動や実験に真剣に取り組み、安全・スムーズに進むようにするために、仲間と協力し考えながら、仮説を立てたり考察したりすることができる。 [課題に対する調整力] ・仲間の意見や考えを聞いたうえで、自分の意見や考えに反映させることができる。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
主な評価場面 ※座学・実験：「知識・技能」 「主体的に学習に取り組む態度」 ※成果物・発表：「知識・技能」「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	探究について	2	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の意義・過程についての理解
5	物理学実験	2	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の過程についての理解 ・実験についての基本的な技能 ・探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能 ・数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力
			マシュマロタワー
			同素体の性質
6	生物学実験	2	葉の断面の観察
	数学実験	2	体育館の屋根の高さを測る

			<ul style="list-style-type: none"> ・調査等についての基本的な技能 ・数学的な手法や科学的な手法などを用いて，探究の過程を遂行する力
	つまようじタワーコンテスト	4	設計図の作成
7	つまようじタワーコンテスト	4	タワー作製
8	つまようじタワーコンテスト	2	タワー作製
9	つまようじタワーコンテスト	8	タワー作製
10	つまようじタワーコンテスト	4	タワー作製
	課題研究	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観察，実験，調査等についての基本的な技能 ・事象を分析するための基本的な技能 ・数学的な手法や科学的な手法などを用いて，探究の過程を遂行する力 テーマ設定
11	課題研究	2	先行研究調査及び実験計画
		6	実験
12	課題研究	4	実験
1	課題研究	6	<ul style="list-style-type: none"> ・探究した結果をまとめ，発表するための基本的な技能 まとめ及び発表
2	探究活動	4	チーズ作り・ダイラタンシー
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
食品製造	総合選択・2年 (普通科S類型・ 総合ビジネス科)	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品製造（実教出版） <input type="checkbox"/> 配付プリント
------	--

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p>	<p>食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p>	<p>食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品製造について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [P D C A学習ができた] ・食品製造に関する課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食品製造の意義と動向	2	食品製造の意義、食品産業の現状と動向
	製造実習	2	まるめクッキー
	製造実習	2	絞り出しクッキー
5	食品製造の基礎	2	食品の分類
	製造実習	2	型抜きクッキー
	製造実習	2	マドレーヌ（共立て法）
6	農産物の加工：穀類の加工	2	穀類の種類と特徴、米
	製造実習	2	パウンドケーキ（別立て法）
	製造実習	2	まるめパン、ロールパン
7	農産物の加工：穀類の加工	4	小麦、パン
8	農産物の加工：穀類の加工	2	菓子類
9	食品加工と食品衛生	2	食中毒
	製造実習	2	ベーグル
	製造実習	2	アイスクリーム
10	畜産物の加工	4	牛乳の加工
	製造実習	2	ヨーグルト
11	製造実習	2	バター
	製造実習	2	酸乳飲料
	農産物の加工：穀類の加工	2	菓子類：スポンジケーキ、デコレーションケーキ

12	製造実習	2	スポンジケーキ
	製造実習	2	デコレーションケーキ
1	農産物の加工：果実類の加工品	2	果実の特徴とその加工品
	製造実習	2	ゼリー（ゼラチン）
	製造実習	2	ゼリー（寒天）
2	食品の包装と表示	4	食品の包装、加工食品の表示制度
3	製造実習	2	いちごジャム
	製造実習	2	大福

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
総合選択・林産物利用	2年	2	

使用教材	□実教出版「林産物利用」
------	--------------

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、林産物の利用に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
林産物の利用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	林産物の利用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	林産物が多様な利用につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、<u>適切にメモに残している。</u> 	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、<u>自分や班の考えを記述できている。</u> 	<p>B 評価の規準</p> <p>[粘り強さ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 <p>[自分なりの工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。 <p>※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。</p>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	森林資源の循環利用と林業・林産業		循環資源としての木材
	循環資源としての木材		製材、カンナがけ、木取り、墨付け
	木造建築物と循環		
5	木造建築物と循環		木材加工業の現状と課題 特殊林産物製造業の現状と課題
	林産業の現状と動向		製材、カンナがけ、木取り、墨付け
6	木材の構造		木材の肉眼的構造
			製材、カンナがけ、木取り、墨付け
7	木材の構造と性質		木材の顕微鏡的構造・物理的性質
			製材、カンナがけ、木取り、墨付け
8			
9	鋸について		両刃ノコギリは縦挽きと横挽きの特性
10	木材の乾燥と保存		木材を乾燥させ利用することの重要性
11	木材の工作		木材を組み上げる工法

12	塗装		木材加工の仕上げの重要性を理解
1	キノコの生産と加工		キノコの生態について理解
2	山菜、薬用植物、つる等		森林資源や林産物の重要性を理解
3	1年間の振り返り		

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生物活用	総合選択・2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 生物活用（実教出版）
-------------	-------------------------------------

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物活用について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	生物活用に関する課題を発見し、農業や農関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜や草花の生産や産業の特徴を理解することができた。 野菜や草花の栽培技術を身に付けることができた。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え・意見を持ち・表現することができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜や草花の生産に関する課題に気づき、解決するために自らの考えを説明できた。 仲間と協力して行う課題に対して、仲間の意見を聞き、まとめることができた。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[積極的に行動できた・協働することができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜や草花に対して興味・関心を持ち、学習や実習に主体的・意欲的に取り組むことができた。 学習活動に関して、仲間と協働的に取り組み、周りを見て行動することができた。
<p>※ 定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	生物活用の意義と役割	2	生物活用とは何か 生物活用の大切さ
		2	私たちの暮らしと生物活用 【栽培プロジェクト①】夏花壇用草花の播種
5	生物活用とプロジェクト学習	2	プロジェクト学習とは プロジェクトの進め方 【栽培プロジェクト①】夏花壇用草花の管理
	植物・園芸と人間生活	2	私たちの暮らしと園芸 植物・園芸の活用 植物を扱う際の留意点 【栽培プロジェクト①】夏花壇用草花の管理
	野菜・ハーブの栽培と活用	2	野菜・ハーブの活用…コンテナ栽培とは 【栽培プロジェクト②】夏野菜の栽培と管理
6	草花の栽培と活用	2	草花の種類と特性 花壇の活用と管理 【栽培プロジェクト①】夏花壇のデザイン・定植
		2	園芸デザイン 【栽培プロジェクト②】夏野菜の栽培と管理
6	野菜・ハーブの栽培と活用	2	野菜の種類と特性 野菜の栽培

			【栽培プロジェクト②】夏野菜の栽培と管理
7	野菜・ハーブの栽培と活用	2	ハーブの種類と特性 ハーブの栽培 【栽培プロジェクト③】コンパニオンプランツ
		2	ハーブの利用 花壇の活用と管理（切り戻し等） 【栽培プロジェクト①】夏花壇・野菜の片づけ
8	生物を活用した療法	2	生物を活用した療法とは 植物を治療に活用する…ハーブの活用 【栽培プロジェクト③】秋冬野菜栽培の計画
9	草花の栽培と活用	2	草花の種類と特性 花壇の活用と管理 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の計画・播種
	野菜・ハーブの栽培と活用	2	キッチンガーデン 【栽培プロジェクト③】秋冬野菜の栽培と管理
	草花の栽培と活用	2	室内園芸装飾 【栽培プロジェクト⑤】観葉植物の繁殖と栽培
10	草花の栽培と活用	2	地域緑化、都市緑化 【栽培プロジェクト③】秋冬野菜の栽培と管理 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の栽培と管理
	生物活用の実践	2	交流活動の大切さ 交流活動の心がまえ 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の栽培と管理 【栽培プロジェクト⑤】観葉植物の栽培と管理
11	交流活動の実際	2	交流活動の実施の流れ 対象者の理解 活動計画の立案・実施 【交流活動】交流活動の計画・交渉
	野菜・ハーブの栽培と活用 草花の栽培と活用	2	【栽培プロジェクト③】秋冬野菜の栽培と管理 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の栽培と管理
	交流活動の実際	2	【交流活動】交流活動の実際
12	交流活動の実際	2	活動のまとめ 【交流活動】交流活動のまとめ（御礼状書き等）
	野菜・ハーブの栽培と活用	2	2学期のまとめ 【栽培プロジェクト③】片付け等
1	園芸療法とは	4	園芸療法とは 世界や日本における園芸療法の実際 【栽培プロジェクト⑤】観葉植物の栽培と管理

2	動物介在療法	2	動物介在療法とは 世界や日本における動物介在療法の実際 【栽培プロジェクト⑤】観葉植物の栽培と管理
3	1年間のまとめ	2	1年間の学習をまとめる

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
コミュニケーション技術	2年普通科（S類型） 総合ビジネス科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 実教出版株式会社 コミュニケーション技術
------	---

科目の目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、対人援助や福祉実践の場での人間関係の構築に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	対人援助の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 定期的に小テストを実施し、授業内容が理解できているかを確認する。 【評価物】 ・小テスト	B 評価の規準 グループワークや演習などを取り入れながら、コミュニケーション能力や観察力、判断力、思考力などを身に付ける。 【評価物】 ・ワークシート ・授業中の発言	B 評価の規準 ・授業中の態度(積極的に参加・発言しているか?) ・提出物やノートの状況(期日をも持っているか? メモはとられているか? 空欄なく書いているか?) 【評価物】 ・提出物 ・課題レポート
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1編 介護におけるコミュニケーション 第1章 コミュニケーションの意義と役割	4	人間の理解と人間関係
			コミュニケーションの意義・目的・役割
5	第3章 援助の技法とコミュニケーション	13	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
			受容と共感
6	第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーションサービス利用者や家族との関係づくり	6	対人援助におけるコミュニケーションの実際
			個別援助、集団援助
7	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	4	利用者や家族との関係づくり
			家族への支援
8			高齢者とのコミュニケーション

9	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	4	認知症の人とのコミュニケーション
10 11	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	16	障害とコミュニケーション 知的障害のある人とのコミュニケーション 視覚障害のある人とのコミュニケーション 聴覚障害のある人とのコミュニケーション 手話、点字
12	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	12	言語障害のある人とのコミュニケーション 運動機能障害のある人とのコミュニケーション
1	第3章 介護におけるチームのコミュニケーション	2	記録の意義と目的
2 3	第3章 介護におけるチームのコミュニケーション		記録の種類 記録の方法と管理

令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
マーケティング	総合ビジネス科2年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 マーケティング（実教出版） <input type="checkbox"/> 準拠問題集 マーケティング（実教出版） <input type="checkbox"/> 問題集 商業経済検定模擬試験問題集1・2級マーケティング（実教出版）
-------------	---

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・マーケティングに関する個別の事実に知識を口頭または記述によって表出する。 ・一定の手順や段階を追って身につく個別の技術を使って表出する。	B 評価の規準 ・知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力などを他者に表出する。	B 評価の規準 ・自らの学習を調整しようとしているか。
※定期考査や小テスト、実技テスト等によって評価する。	※定期テストやレポート、話し合いの場面等によって評価する。	※ノートや問題集における記述、授業中の発言、教師による行動観察、宿題提出の期日厳守等によって評価する。
特に成果があった場合は A 評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	introduction	3	○マーケティングを学ぶ意義を理解する。 ○現代市場におけるマーケティングの概要について理解し、現代市場の特徴と関連付けて考える。また、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む。
	第1章マーケティングの概要		
	1. マーケティングの歴史と発展		
	2. 現代の市場とマーケティング		
5	第2章 消費者行動の理解	8	○マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について理解する。 ○購買意思決定までの過程について、消費者の心理と消費者行動に影響を与える要因を関連付けて考えることができる。 また、消費者行動の理解について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。
	1. 消費者の心理と行動の関係		
	2. 購買意思決定過程		
6	第3章 市場調査	12	○市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
	1. 市場調査の概要		
	2. 市場調査の手順		

	3. 仮説検証の手順		○市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析する。
	4. 実態調査の方法		
7	第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング	7	○STP分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ○STP分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 ○STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
8			
9	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	10	○製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ○製品政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案・実施、評価・改善をしている。 ○製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
10	第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	10	○価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ○価格政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善をしている。 ○価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
11	第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向	9	○チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ○また、その課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。 ○チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、その政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

12	第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類	9	○プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。また、その政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。 ○プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
1	第8章 プロモーション政策 3. プロモーション政策の動向	7	○プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。また、その政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。 ○プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
2	第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング	9	○マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解している。 ○マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。
3	第9章 マーケティングのひろがり 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング 5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング	4	○マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる

令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
原価計算	総合ビジネス科2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 原価計算（実教出版） <input type="checkbox"/> ワークブック 最新段階式簿記検定問題集 <input type="checkbox"/> 検定問題集 全商簿記実務模擬試験問題集1級原価計算新検定対応
-------------	--

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。	(2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。	(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [理解できた・完成した] ・【問題集等】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・原価計算は非常に難しい科目だが、解答集や仲間の解答を写さず独力で解いていく。	B評価の規準 [発展した学習によく考え、取り組み、説明できた] ・【教科書の問題】や【M論題集】を仲間と協力して取り組み、自分の考えや不明なところを伝えることができる。	B評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、問題集等の課題にじっくり取り組むことができる。 [自分なりの工夫] ・自分の到達目標を決め、予習復習、進んだ学習ができています。特に検定試験を受験しますので復習が必要です。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 原価と原価計算	1	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業の簿記 ・原価と原価計算 ・製造原価と総原価
	第2章 原価計算のあらまし	2	<ul style="list-style-type: none"> ・原価勝訴の分類 ・賦課と配賦 ・簡単な例による原価計算 ・原価計算の目的 ・原価計算の手続き ・原価計算の計算期間 ・原価計算の種類
	第3章 工業簿記-製造業における簿記-	2	<ul style="list-style-type: none"> ・工業簿記の特色 ・製造活動を記録するために必要な勘定 ・工業簿記の基本的な仕組み ・記帳手続きの例示
5	第4章 材料費の計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費の分類 ・材料費の仕入れ

			<ul style="list-style-type: none"> ・材料の保管 ・材料の消費 ・材料消費高の計算 ・予定価格法による場合の記帳
	第5章 労務費の計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・労務費の分類 ・賃金支払高の計算 ・賃金消費高の計算 ・賃金以外の労務費
6	第6章 経費の計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・経費の分類 ・経費消費高の計算
	第7章 個別原価計算	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算の手続き ・原価計算表の記入方法 ・原価元帳と仕掛品勘定の関係 ・製造間接費の配賦方法 ・製造間接費の予定配賦 ・仕損品・作業くずの処理
	第8章 部門別個別原価計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別計算の目的 ・原価部門の設定 ・勘定の設定 ・部門別個別原価計算の手続き
7	第9章 総合原価計算	3	<ul style="list-style-type: none"> ・総合原価計算の特色 ・総合原価計算の種類 ・単純総合原価計算 ・平均法による月末仕掛品原価の計算 ・先入先出法による月末仕掛品原価の計算 ・単純総合原価計算表と記帳法 ・等級別総合原価計算表 ・組別総合原価計算
	第10章 工程別総合原価計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・工程別総合原価計算の意味 ・工程別総合原価計算の手続きと記帳法
8	第11章 総合原価計算における減損・仕損じ などの処理	2	<ul style="list-style-type: none"> ・減損の意味 ・減損の処理 ・仕損じの処理 ・副産物・作業くずの処理
9	第12章 製品の完成と販売	3	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の完成 ・製品の販売 ・販売費及び一般管理費
	第13章 決算と本社・工場間の取引	2	<ul style="list-style-type: none"> ・決算の手続き ・財務諸表の完成 ・本社・工場間の取引

10	第14章 標準原価計算（その1）	3	<ul style="list-style-type: none"> ・原価管理と標準原価計算 ・標準原価計算の特色 ・標準原価計算の手続き ・原価標準の設定 ・標準原価の計算
	第15章 標準原価計算（その2）	2	<ul style="list-style-type: none"> ・実際原価の計算 ・原価差異の計算と分析 ・標準原価計算の記帳法 ・記帳と分析の例示
11	第16章 直接原価計算（その1）	3	<ul style="list-style-type: none"> ・利益計画と直接原価計算 ・直接原価計算の特色 ・直接原価計算の手続き ・直接原価計算による損益計算書
	第17章 直接原価計算（その2）	5	<ul style="list-style-type: none"> ・CVP分析 ・損益分岐図 発展学習①②
12	記帳練習例題	7	<ul style="list-style-type: none"> ・第1例題
1	記帳練習例題	7	<ul style="list-style-type: none"> ・第2例題
2	記帳練習例題	6	<ul style="list-style-type: none"> ・第3例題
3	学習の振り返り	5	<ul style="list-style-type: none"> ・検定問題集

令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
財務会計 I	総合ビジネス科 2年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 商業727「高校財務会計 I」 <input type="checkbox"/> 問題集 最新段階式 簿記検定問題集 全商2級 <input type="checkbox"/> 問題集 全商簿記実務検定模擬試験問題集 2級
------	--

科目の目標		
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・適切な会計情報を提供するために個別の事実的な知識を口頭または記述によって表出する。 ・一定の手順や段階を追って身につく個別の技術を使って表出する。	B 評価の規準 ・知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力などを会計処理の方法を用いて他者に表出する。	B 評価の規準 ・自らの学習を調整しようとしているか。
※定期考査や小テスト等によって評価する。	※定期テストやレポート、話し合いの場面などによって評価する。	※ノートや問題集における記述、授業中の発言、教師による行動観察、宿題提出の期日厳守などによって評価する。
特に成果があった場合は A 評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計	2	・企業会計の意味と役割・株式会社制度の特徴・財務会計の機能・会計公準・会計の歴史
	第2章 企業会計制度と会計法規	4	・企業会計制度・会計法規・企業会計原則と企業会計基準・財務諸表の種類・財務諸表の構成要素
5	第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし	4	・貸借対照表とその役割・貸借対照表の区分・貸借対照表の様式
	第4章 資産の意味・分類・評価	4	・資産の意味・資産の分類・資産の評価
	第5章 流動資産	4	・当座資産の意味・現金預金・受取手形・電子記録債権・売掛金・クレジット売掛金・貸倒見積高の設定・有価証券
	第6章 流動資産	4	・棚卸資産の意味・棚卸資産の取得原価と費用配分の原則・払出価額と期末棚卸高の計算・棚卸資産の期末評価・売価還元法・その他の流動資産
6	第7章 固定資産	4	・有形固定資産の意味・有形固定資産の取

			得原価・資本的支出と収益的支出・有形固定資産の期末評価・減価償却・固定資産の除却と買い替え・リース資産
	第8章 固定資産	2	・無形固定資産の意味・無形固定資産の取得原価
	第9章 固定資産	2	・投資その他の資産の意味・投資有価証券の期末評価・子会社株式・関連会社株式の期末評価
7	第10章 負債の意味と分類	4	・負債の意味・負債の分類
	第11章 流動負債	4	・流動負債の意味・引当金の意味・役員賞与引当金・保証債務
8	第12章 固定負債	4	・固定負債の意味・社債・長期借入金・リース債務・退職給付引当金・偶発債務
9	第13章 純資産の意味と分類	2	・純資産の意味・純資産の分類
	第14章 資本金	2	・株式会社の資本金・資本金の増加-増資・資本金の減少-減資
	第15章 資本剰余金	2	・資本剰余金の意味・資本準備金・その他資本剰余金・会社の合併
	第16章 利益剰余金	2	・利益剰余金の意味・利益準備金・任意積立金・繰越利益剰余金・剰余金の配当
10	第17章 自己株式	2	・自己株式の意味・自己株式の取得・自己株式の処分・自己株式の消却
	第18章 新株予約権	2	・新株予約券の意味・新株予約権の発行・新株予約権の行使
	第19章 貸借対照表の作成	4	・棚卸法と誘導法・貸借対照表の作成に関する原則・貸借対照表の配列・貸借対照表に関する注記・貸借対照表の作成例
11	第3編 損益計算書	2	・損益計算書とその役割・損益計算書の区分・損益計算書の様式
	第20章 損益計算書のあらまし		
	第21章 損益計算書の意味と基準	2	・損益計算の意味・損益計算の基準
	第22章 売上高	2	・売上高・工事収益
	第23章 売上原価、販売費及び一般管理費	2	・売上原価・販売費及び一般管理費
12	第24章 営業外収益・営業外費用	4	・営業外収益・営業外費用・経常利益・経常損失
	第25章 特別利益・特別損失	4	・特別利益・特別損失・当期純利益
1	第26章 損益計算書の作成	4	・損益計算書の作成に関する原則・損益計算書に関する注記・損益計算書の作成例

	第27章 その他の財務諸表	4	・株主資本等変動計算書・注記表・付属明細書
	第4編 その他の会計処理 第28章 役務収益・役務原価	2	・役務収益・役務原価
	第29章 外貨建て取引	2	・外貨建て取引の意味・為替レート（外国為替相場）による円換算・外貨建ての買掛金・売掛金処理
2	第29章 外貨建て取引	4	・外貨建ての前払金・前受金・決算時の処理・為替差損益の表示・為替予約
	第30章 税効果会計	4	・税効果会計の意味・貸倒引当金に関する税効果会計・減価償却に関する税効果会計・その他有価証券に関する税効果会計・繰延税金資産と繰延税金負債の表示
	第5編 財務諸表の活用 第31章 財務諸表のディスクロージャー	2	・企業と利害関係者・ディスクロージャー
	第32章 財務諸表の分析	2	・財務諸表分析の意味・財務諸表分析の方法・関係比率法による分析
3	第32章 財務諸表の分析	4	・構成比率法による分析・趨勢法による分析・実数法による分析
	第33章 連結財務諸表のあらまし	4	・企業グループと連結財務諸表・親会社と子会社・連結財務諸表の重要性・連結財務諸表の特徴

令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
ソフトウェア活用	総合ビジネス科・2年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 実教出版 ソフトウェア活用 <input type="checkbox"/> 全商情報処理検定模擬問題集2級
------	--

科目の目標		
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、表計算ソフトウェア、データベースソフトウェアなどビジネスの様々な場面で効果的な活用に関する知識と技術を身に付けること。</p>	<p>ソフトウェアの様々な知識、技術などを活用し、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見と、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力を養うこと。</p>	<p>企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、企業活動におけるソフトウェアなどの活用に責任をもって取り組む態度を養うこと。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B評価の規準 [わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の用語や事象について、幅広く教科書以外の文献等から知識や技術の習得ができた。 知識・技能の習得ができ、日常生活の事象との関連を推測できた。 	<p>B評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の用語や事象について、現状と課題の把握ができ、自分の意見として表現することができた。 	<p>B評価の規準 [課題や提出物が出せた]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習活動に真剣に取り組むことができた。 授業中の課題や授業評価や宿題等の提出ができた。 自分自身の意見だけでなく、他者の意見も聴き、総合的・創造的な判断ができた。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>※特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ビジネスにおけるソフトウェアの活用	4	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの活用と目的 ネット通信ビジネスにおけるソフトウェアの活用 観光ビジネスにおけるソフトウェアの活用 センシング技術とソフトウェアの活用
	ビジネスにおけるソフトウェアの進化	4	<ul style="list-style-type: none"> Society5.0 で実現する社会 AI を活用した社会の変化 探究問題
5	情報通信ネットワークの活用	6	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク構成とハードウェア ネットワーク利用とソフトウェア ネットワークの構築手順 ネットワークの設定手順
	情報資産の保護		<ul style="list-style-type: none"> リスクの管理 アクセス管理

		8	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルサーバー管理 ・認証サーバー管理 ・データの保護 ・セキュリティーポリシーの管理 ・演習・探究問題
6	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	8	<ul style="list-style-type: none"> ・統計の基礎 ・情報の集計 ・情報の分析 ・旅行業と地域の関わり
	表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理 ・回帰分析を用いた売上分析 ・日程管理 ・線形計画法 ・待ち行列 ・ゲーム理論
7	手続きの自動化	4	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きの記録と実行 ・マクロの登録 ・相対参照で記録 ・演習問題・探究問題
	ビジネスとデータベース	4	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なデータベースの活用と重要性 ・データベースとは ・表計算ソフトウェアとの比較 ・データベースソフトウェアの機能と役割
	データベースの作成と操作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースの作成 ・テーブルの作成とデータ入力 ・インポートエクスポート ・リレーションシップ
8	データベースの作成と操作	2	<ul style="list-style-type: none"> ・クエリの作成・種類 ・データの検索機能
9	データベースの作成と操作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ファームの作成 ・レポートの作成
	手続きの自動化	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーフォームの作成 ・クエリの実行・ファームの表示・レポートの表示
	データベース構造	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本表と仮想表 ・データの正規化
	SQLの操作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・SQL ・SQLの基本操作
10	業務処理用のソフトウェアの活用	3	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアの導入のメリットと実例 ・グループウェアの実例と活用実習

	販売管理ソフトウェアの活用	3	<ul style="list-style-type: none"> ・販売管理ソフトウェア導入のメリットと実例 ・販売管理ソフトウェアの実例と活用実習
11	給与計算ソフトウェアの活用	3	<ul style="list-style-type: none"> ・給与計算ソフトウェア導入のメリットと実例 ・給与計算ソフトウェアの実例と活用実習
	システム開発の基礎	10	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発の概要 ・ソフトウェア開発モデル ・開発プロセスフレームワーク ・ソフトウェア開発手法 ・インターフェース設計
12	システム開発の基礎	4	<ul style="list-style-type: none"> ・テストと保守 ・探究問題
	アルゴリズムの基礎	10	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムと流れ図 ・アルゴリズムの基本設計 ・さまざまなアルゴリズム
1	情報システム開発演習	8	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携 ・表計算ソフトウェアによる情報システム開発
2	情報システム開発演習	8	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースソフトウェアによる情報システム開発 ・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携演習
3	総合ビジネス科のプレゼンテーション実習	6	<ul style="list-style-type: none"> ・総合ビジネス科の紹介チラシ ・総合ビジネス科の紹介PV